

令和6年度 学校評価



山梨市立八幡小学校

八幡小学校 令和6年度 学校評価の総括

【1】学校教育目標

- やさしく、思いやりのある子
- わかるまで考え、努力する子
- たくましく、明るい元気な子
- がんばっている自分に誇りを持てる子

【2】学校経営方針の基本理念

- 児童一人一人を大切に、心豊かな人間性を育てる。
- 児童の学習意欲を高め、学力の向上と創造性を引き出す。
- 生命尊重の精神を基本に、心身ともに健康でたくましい児童の育成に努める。
- 自尊感情を持ち、自ら気づき・考え・行動できる児童の育成に努める。

【3】学校評価の方法

①自己評価（教職員）の実施（7月・10月）

②児童・保護者アンケートの実施（10月）

※保護者が本校の教育活動を理解した上で評価できるように、活動内容の説明を提示する。
理解が不十分な場合は、4段階評価の他に【わからない】という項目を設定する。
アンケートは記名式とし、回答に責任を持っていただく。

③学校運営協議会での学校関係者評価の実施（11月）

評価委員（区長会長・社会教育委員・公民館長・民生児童委員
・元小学校校長・PTA会長・前PTA会長）

④保護者への公表（12月）

⑤市教育委員会へ学校評価報告書の提出（3月）

【4】評価基準

- ・全体傾向を把握するため、4・3評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断し、それ以外を『改善の余地がある状況』と判断した。
(4 そう思う 3 だいたい思う 2 あまり思わない 1 そう思わない ○ わからない)

【5】評価の結果について（児童・保護者・職員によるアンケート結果）

①全体評価

- ・今年度は、年度始めより感染症予防の影響等もほぼなく、計画通りに教育活動を進めることができた。学校教育は、協働的な学び合いの中で進められることが多い。これからも「主体的・対話的で深い学び」を目指した教育活動を進め、子供たちの豊かな学びの保障・推進に努めていきたい。

- ・評価の結果を見ると、総合評価としては、児童・保護者・教職員ともに概ね良好な水準となった。
- ・児童アンケートでは、全21項目のうち20項目が『満足できる状況（肯定80%以上）』となり、そのうち14項目が肯定90%以上の高い評価となった。「読書活動」（73%）、「生活習慣」（78%）の項目はやや低い評価となった。
- ・保護者アンケートでは、全21項目のうち16項目が『満足できる状況（肯定80%以上）』となりそのうち13項目が肯定90%以上の高い評価となった。「いじめへの対応」（79%）はやや低い評価となり、「家庭学習」（65%）、「読書活動」（53%）、「英語への興味関心」（57%）、「スマホ・ゲーム等の使用のルール」（59%）については低い評価となった。
- ・教師のアンケート結果は、全項目で肯定的な回答となっており、数値的にも高い評価となっている。評価の伸び率も含め、全体としてさらなる改善がみられ、概ね満足できる状態であると判断できる。

②領域ごとの評価

◎学校組織運営

- ・今後も教職員一人ひとりがグランドデザインについての理解と遂行への意識を持ち、学校教育目標の実現に向けて、組織的に連携し、具体的に推進していきたい。
- ・特別支援教育については、今後も全教職員の共通理解と協力体制のもと、さらなる充実に向けて取り組んでいきたい。
- ・いじめ対策として、未然防止と早期発見に力を入れてきた。一人ひとりに寄り添いながら、相互理解による解決を目指した取組を今後も大切にしたい。
- ・働き方改革、業務改善等、全職員が意識・遂行し、7月の調査時より評価の数値も高くなってきている。出張からの直帰や年休取得など、さらに意識・遂行し超勤時間減を目指したい。

◎確かな学力の育成について

- ・「③家庭学習」については、保護者は肯定65%と低い評価となった。一方、児童は肯定88%と高い評価となっており、保護者と児童の認識に差が生じていることがうかがえる。学校では、家庭学習のめやす時間として「学年×10分+10分」を提唱しているほか「家庭学習スタンバイ」の時間を時間割内に設定し、児童が家庭学習に入りやすいようサポートをしている。今後も家庭学習の充実と習慣化を目指し、家庭と学校で協力して取り組んでいきたい。
- ・「④読書活動」については、保護者は肯定53%と低い評価となり、児童も肯定73%とやや低い評価となった。学校では、「読み聞かせ（ボランティア・教員・委員会児童）」や「図書週間」「市巡回図書」など、様々な読書の取り組みを行っていが、児童の家庭での読書までには、あまりつながっていないことがうかがえる。アウトメディアの取組の一環として読書を推奨するなど、今後も、様々なアプローチで児童に働きかけていきたい。

- ・「英語への興味関心」については、保護者は肯定 57 %と低い評価となった。一方、児童は肯定 89 %と高い評価となっており、保護者と児童の認識に差が生じていることがうかがえる。今年度より市の英語特区がはずれ、授業は英語専科と NLT（外国人英語専科教員）の 2 名によって進められているが、保護者も児童も昨年度と評価と大きくは変わっていない。英語については、学校での授業だけでなく、日常生活の中でも活用の幅を広げていけるよう児童に働きかけていきたい。
- ・「自ら思考し、表現する場面を取り入れた学習指導」については、多くの先生が十分取り入れている様子がうかがえる。全国学力状況調査においても常に課題として挙がる場所なので、今後も授業への取り入れの工夫を継続していきたい。
- ・「個に配慮した指導」についても、多くの先生が十分配慮して指導に当たっている様子がうかがえる。多様な状況があるが、引き続きできる限り対応しながら取り組んでいきたい。
- ・ICT の活用については、すべての先生が積極的に活用している様子がうかがえる。新しいものが次々と出てくることもあり活用しきれない側面もあるが、目的・目標を見失わずに効果的な活用を心がけていきたい。

◎豊かな心の育成について

- ・「いじめへの対応」については、保護者は肯定 79 %とやや低い評価となったが「わからない」と回答した保護者も他と比較すると多かった。一方、児童は肯定 97 %と高い評価となっている。学校では、いじめにかかわる案件を重要事項と捉え、常日頃より全教職員の協力体制のもと、未然防止・早期発見・早期解決に向けて丁寧な取組を進めている。学校の取組が保護者にあまり伝わっていないことについては、いじめにかかわる案件が個人情報観点から広く周知させる性質のものではないこと、いじめにかかわる当事者（児童・保護者等）が少ないということでもあると考えられるが、前向きな協力体制をつくるため、取組状況等の保護者への周知を心がけていきたい。
- ・「学校は楽しいか」については、保護者は肯定 96 %、児童も肯定 96 %と双方とも高い評価であった。多くの児童が充実感を味わい、仲間と楽しく生活でき、保護者もそれを実感できている様子がうかがえる。しかし、否定的評価をしている児童・保護者もいることから、今後も引き続き、児童を丁寧に見取ることや一人ひとりに応じた指導・支援を心がけていきたい。
- ・「いじめへの取り組み」は、全職員で未然防止・早期発見・早期解決に取り組んできた。しかし、保護者の評価はやや低い結果となった。また、17 %の保護者の方が「わからない」を選択しており、学校の取り組みが保護者に伝わっていない結果となった。引き続き、いじめアンケートの結果を知らせるなど、学校の取組等を保護者に知らせていきたい。

- ・「学校は楽しいか」の項目では、児童も保護者も評価が高かった。多くの児童が充実感を味わい、仲間と楽しく生活できている様子がうかがえる。しかしわずかながら「学校は楽しいですか」に否定的評価をしている児童もいる。児童を丁寧に見取り、一人ひとりに応じた支援を行っていききたい。
- ・全職員で共通理解が図れるよう、今後も職員会議や終礼での情報交換を綿密に行い、職員が同じ歩調で、児童の支援・指導に当たれるようにしていきたい。
- ・学級指導においては、学級力向上プログラムやQ-U等を効果的に活用し、学級が児童にとって居心地のよい場所となるようよりよい学級づくりを展開している様子がうかがえる。今後も継続していききたい。
- ・児童理解については「個に応じた指導・支援・配慮」等、すべての先生方が丁寧に進めている様子がうかがえる。多様な状況があるが、チーム学校として全職員の協働・協力のもと、今後も進めていききたい。

◎健やかな体の育成

- ・「基本的な生活習慣」については、保護者は肯定92%と高い評価であったが、児童は肯定78%とやや低い評価となった。本校では長期休業あけに児童の学校生活のリズムを整えるための「早寝・早起きチャレンジ」の取組なども行っているが、今後も児童が生活習慣への意識を自ら高められるような取組を行っていききたい。
- ・「スマホ・ゲーム等の使用のルール」については、保護者は肯定60%と低い評価であるのに対し、児童は肯定88%と高い評価で、保護者と児童の認識に差が生じていることがうかがえる。スマホやゲーム等の長時間使用は、生活習慣の乱れ、読書離れ、学力の低下、視力低下などにつながるといわれているため、アウトメディアの取組など、家庭と連携しながら継続して推進していききたい。
- ・運動をする子としない子の二極化も課題である。一校一実践だけでなく、体育の授業や体育的行事、児童会活動、休み時間等を工夫して活用し、児童の体力の向上や運動の日常化につながる取組を推進していききたい。
- ・健康増進や感染症予防等について児童の主体的な態度の育成については、保健指導や保健室からの情報提供・取組等をもとにしっかりと進められている。新型コロナウイルス感染症は下火となったが、コロナ禍に培った感染症予防についてのノウハウ等については風化させずに指導や取組に活かしていききたい。
- ・安全教育については「自分で自分の命や身を守る能力」を育むことが重要となる。自分ごととして考え、取り組ませる指導・支援を今後も継続していききたい。

◎家庭・地域との連携

- ・「家族や先生への相談」については、肯定８０％で８割の児童は家族や教員に相談できると回答している。否定的評価であった２割の児童については、家庭も学校も、相談しやすい雰囲気づくりや相談することの大切さを知らせること、相談する人や手段の幅を広げること（家族や親戚、担任以外の教員など・手紙やメール等の手段など）など、様々なアプローチをしていきたい。また、児童観察を丁寧に行い、児童とのコミュニケーションを積極的に行うようにしていきたい。
- ・情報モラル教育やアウトメディアの取組を通して、望ましい生活習慣の確立を目指した活動を、今後も保護者・地域と連携して推進していきたい。
- ・家庭学習については、家庭学習スタンバイの時間等を有効に活用し、児童が家庭学習を進めやすくなるよう、今後も継続して指導・支援をしていきたい。また、家庭の協力も必要となってくることから、家庭との連携についても工夫していきたい。
- ・学校運営協議会（コミュニティースクール）を中心とした地域素材・人材・フィールドの活用については、本校は市内他校の状況を見ると比較的充実しているといえるが、「地域と共にある学校教育」という点では、教職員はもとより、保護者や地域住民の理解や協力がますます重要となってくるため、その推進に努めていきたい。

●保護者アンケート記述（概略）（１２名）

- ・肯定的な意見・感想など（５名）
- ・子どもが毎日楽しく安全に八幡小学校に通えているのも、先生方のおかげと感謝している。
- ・いじめに関して相談しても、あまり学校から寄り添いを感じない「様子を見ましよう」といって経過観察が続いた。
- ・「本当はいじめではないけれど、お子さんがいじめとを感じるならいじめなのかもしれません。相手はいじめているという気持ちはないので、線引きが難しいですね」と言われた。約１年、本人は苦しんでいるのになぜ相手方の方を信じるのだろうか。
- ・怖かったことや苦しみを勘違いで思い込みのようなニュアンスで言うのは悲しい。
- ・「いじめのことを意見し主張したことで、相手側が傷付きました」と言われた。一年間傷ついているのはこちらのはず…
- ・自転車でヘルメットを被らず、とぼしている子が多くみられます。田舎道なので、とぼしてくる車も多いので気をつけてほしいと改めて指導をお願いしたい。
- ・「自分達で解決しな！」ということはいいいことですが、時には解決出来ないこともあるのでその一言で解決しようとするのはどうなのかな？と思う。
- ・友達同士のトラブルも経験しながら成長しているように感じる。学校端末の家庭での活用については、制限をしにくく付き合い方が難しいと感じる。

- ・子供の自己肯定感がとても低い。一人のお友達としか遊ばない。
- ・春の遠足が無いことが寂しい。秋の遠足が生活科ののみというのも寂しい。
- ・春の遠足が無いことがとても寂しい。また、秋の遠足も生活科と抱き合わせなのが寂しい。他校の状況と八幡の状況の差が生じているのは何故か。
- ・学校全体のICTを活用した教育活動の充実を期待している。

【6】八幡小学校運営協議会委員による学校関係者評価（11月29日）

◎概要

学校より、学校評価（職員・児童・保護者）の結果の報告を行った。

職員アンケートでは全体として肯定的な回答であること、数値的にも1回目の評価（7月）より高い評価となっていること、評価の伸び率も含め、2学期に入ってさらなる改善がみられ、概ね満足できる状態であると判断できることを報告した。

児童・保護者アンケートでは、全体としては高評価であったこと、低評価であった点（家庭学習・読書活動・スマホやゲームの使用等）についての説明、保護者の『わからない』の回答が多かった項目（学校のいじめの取り組み）についての説明等を行った。その後、学校としての課題改善・解決に向けて取組中の事案等について示した上で、委員の皆さんからのご質問やご意見等をいただいた。

◎委員の方からの質問・意見等

- ・学級力（学級の仲間として協力する力）があると、学習も活動もよい方向へと向上する。今日的な様々な学習や活動があるが、子供たちには仲間と協力することを大切にして、よりよいものを創り上げてほしい。今日は子供たちの活動が見られたり、学校評価について知ったりすることができた。このような機会を設けてもらってよかった。
- ・ICT活用にかかわって、今の時代に必要なことだが、子供たちの活字離れが進んでいるように思う。山日新聞の「こぴっと」が学校の廊下に掲示してあったが、よい記事なので、子供たちに読むことを進めたい。また不登校の子が問題となっているが、不登校になるような子は、感情豊かで繊細であって、感受性も高い。それをうまく活かしていくことはできないか。
- ・学校評価では保護者と児童、教師の捉え方のギャップがいくつかあることが気になった。とくに、「いじめ」の項目で「わからない」と回答している保護者が多かった。情報共有等によりギャップが少なくなっていくとよい。
- ・保護者アンケートのコメントに「いじめが続いていて、子どもが辛い思いをしているが、学校の対応が不十分」という意見があるが、そのところはどうなっているのか。

※質問については、校長・教頭より回答

【 7 】 おわりに

今年度の学校評価の結果分析では、本校の教育活動が全体的には概ね良好な様子が明らかになった。この結果は決して当たり前のことではなく、日頃より保護者・ご家族の皆さん、学校運営協議会委員の皆様をはじめとする地域の方々、本校教職員、そして何よりも本校の子供たちが、優しさと前向きさをもって日々の学習や学校生活を頑張っている成果だといえる。

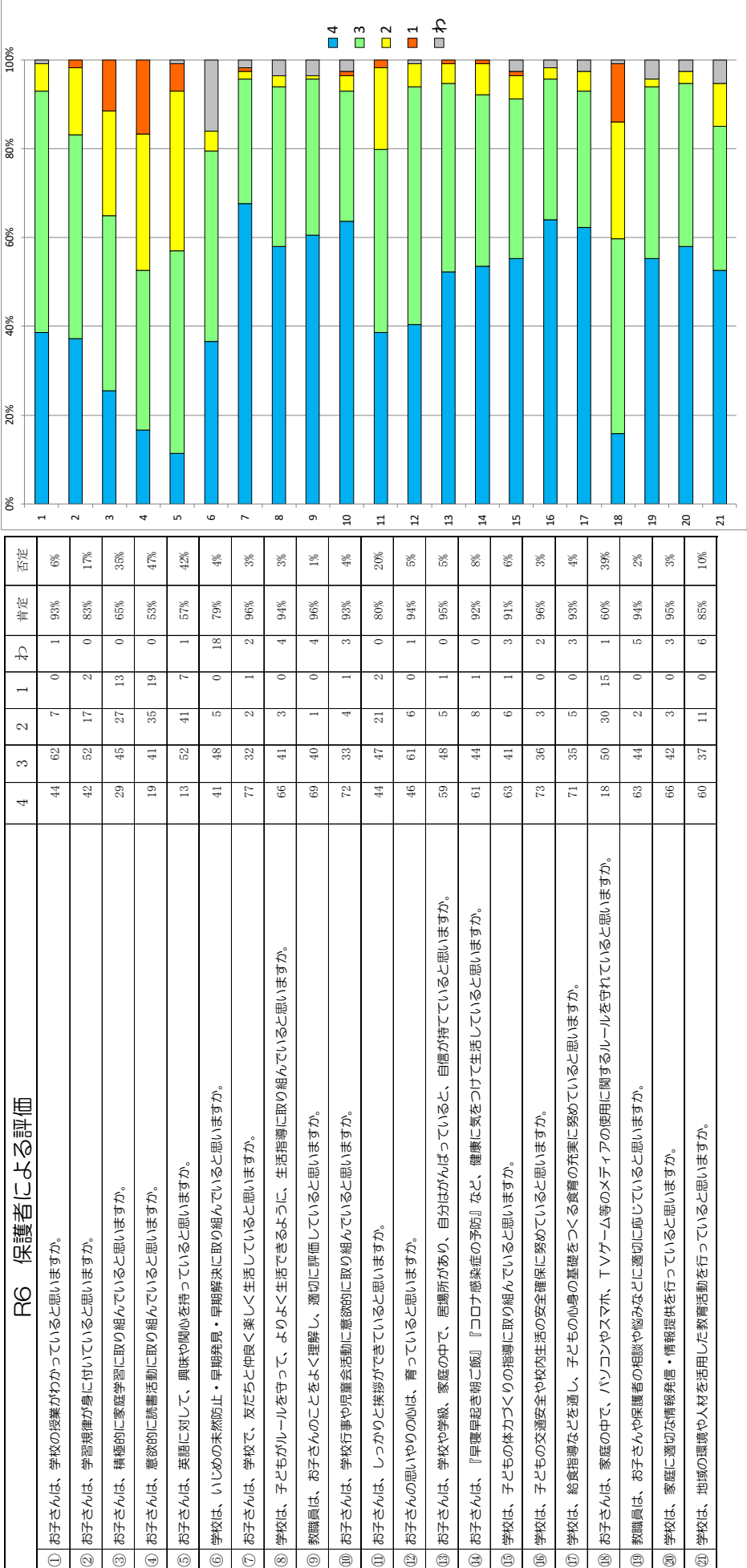
しかしながら、課題がないということではなく、具体的な課題は必ずいくつかあるものである。これからも保護者の方々や学校運営協議会の皆様をはじめとする地域の方々からのご意見やご指導をいただく中で、学校課題の解決に向けた改善策を講じていくとともに「信頼される学校づくり」「地域に開かれた学校づくり」に努めていきたい。

これからも、学校と保護者・地域の情報相互発信や連携を強化し、子供たちと保護者・ご家族、地域の方々、教職員が同じビジョンをもち、さらなる連携・協働を推進する取組を進め、子供たちの豊かな学びの保障・推進に努めていきたい。

令和6年度 保護者アンケート

回答率100%

4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない わ=わからない



令和6年度 児童アンケート

4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない

